

2021年6月期 決算説明会資料



証券コード1382 株式会社 ホーブ

2021年8月20日



会社概要

■ 会社名	株式会社ホーブ
■ 代表取締役社長	政場 秀
■ 設立	1987年 6 月
■ 本社所在地	北海道上川郡東神楽町
■ 資本金	4億2125万円
■ 発行済株式総数	762,000株
■ 従業員数	42人（連結） 25人（個別）
■ 事業所	北海道本社／東京本部
■ 連結子会社	株式会社エス・ロジスティックス

事業内容

事業区分（セグメント）および事業内容

事業区分	事業内容
いちご果実・青果事業 (当社)	いちご果実（自社品種・その他いちご）、青果、農業用資材等の仕入販売
種苗事業 (当社)	自社いちご品種、その他種苗の生産と販売
馬鈴薯事業 (当社)	種馬鈴薯の生産販売及び仕入販売 青果馬鈴薯の仕入販売等
運送事業 (株式会社エス・ロジスティックス)	運送業務

業績の概要



連結業績

(単位：百万円)

	2021/6期	2020/6期	増減額	増減率 (%)
売上高	3,039	3,230	△191	△5.9
売上総利益	647	610	36	6.1
営業利益	106	24	81	334.8
経常利益	109	26	82	309.4
親会社株主に 帰属する 当期純利益	108	28	79	274.1

セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2021/6期		2020/6期	増減率 (%)
		構成比 (%)		
いちご果実・青果事業	2,738	90.1	2,968	△7.7
種苗事業	74	2.5	51	43.6
馬鈴薯事業	134	4.4	121	10.9
運送事業	91	3.0	89	2.5
連結	3,039	100.0	3,230	△5.9

セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	2021/6期	2020/6期	増減率 (%)
いちご果実・青果事業	222	179	23.9
種苗事業	33	7	338.1
馬鈴薯事業	4	△9	—
運送事業	7	6	6.6
調整額※	△161	△160	—
連結	106	24	334.8

※調整額は主にどの部門にも帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

セグメント別の状況



種苗事業

- 新規に栽培を始める生産者があったものの、栽培休止や規模の縮小などにより栽培面積が減少したために、種苗の販売数量がわずかに減少。
- 一方で、当社の所有する四季成性いちごの育種技術や栽培技術が、国内・海外からも評価され、新品種の共同開発に関わる業務や海外への栽培指導業務を外部から受託したことで、売上高および利益ともに前期よりも増加する結果となる。



自社育成品種「ペチカほのか」
(商品名：夏瑞／なつみずき)

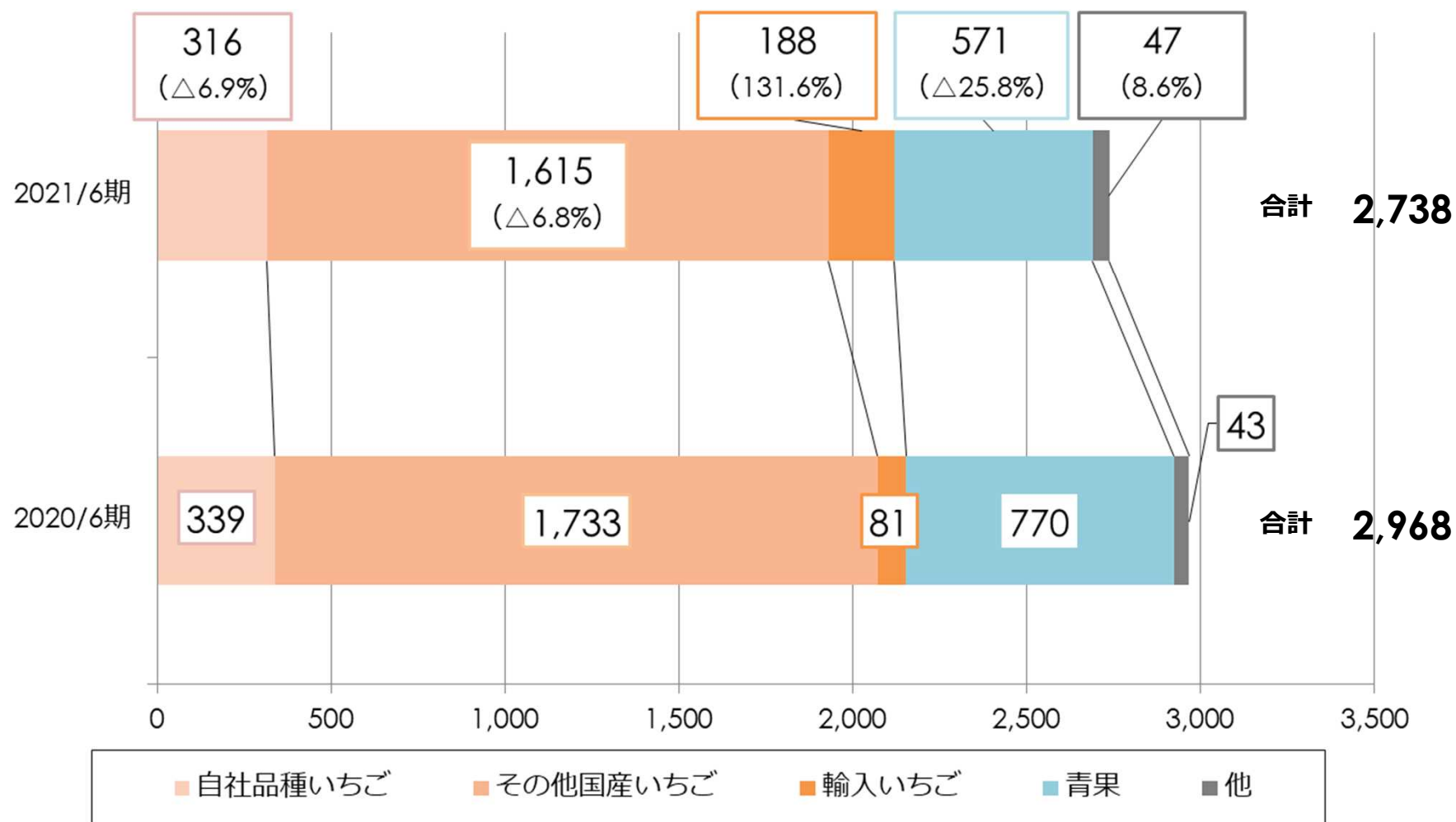


自社育成品種「ペチカエバー」
(商品名：コア)



いちご果実・青果事業一品目別売上高一

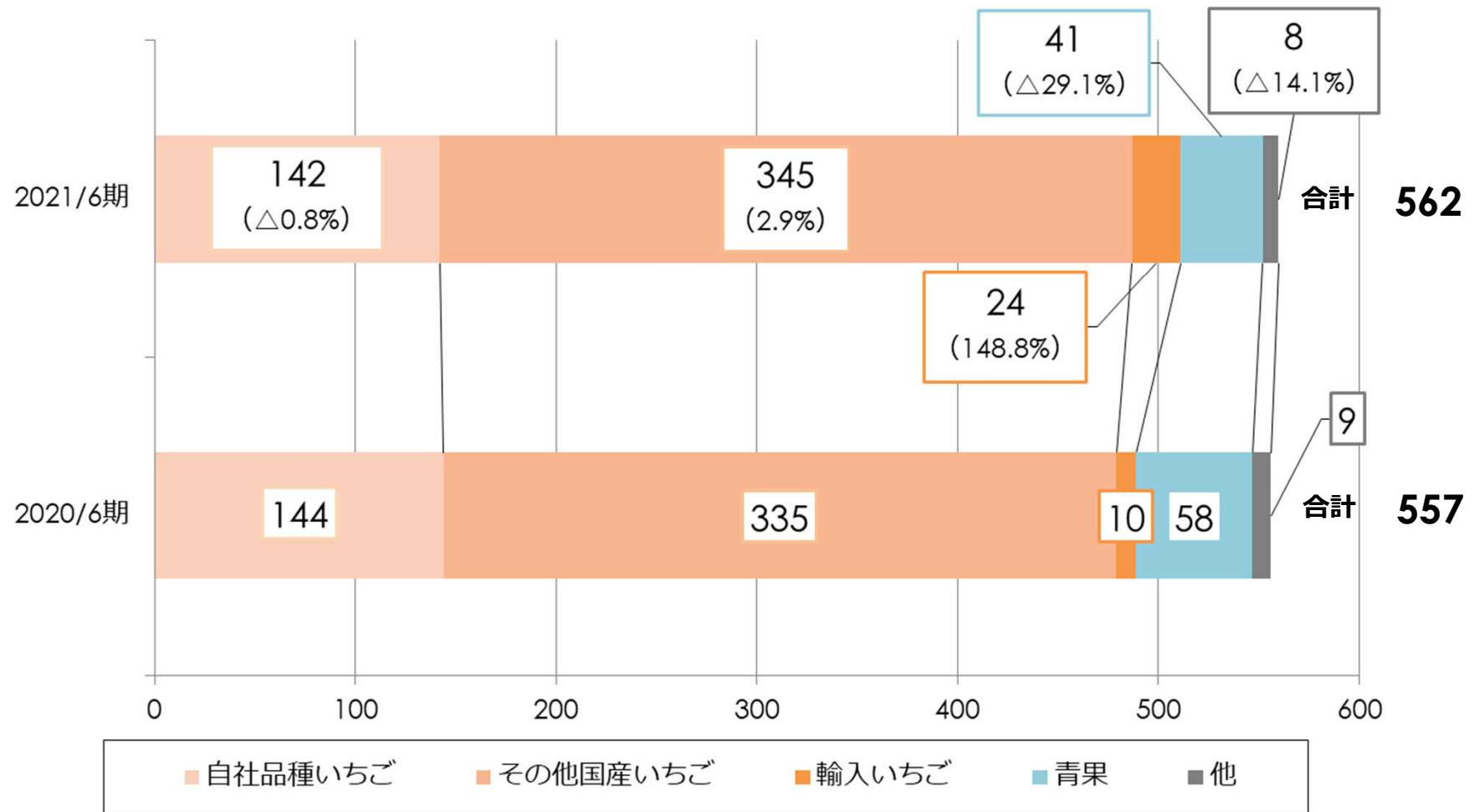
(単位：百万円)





いちご果実・青果事業一品目別総利益ー

(単位：百万円)

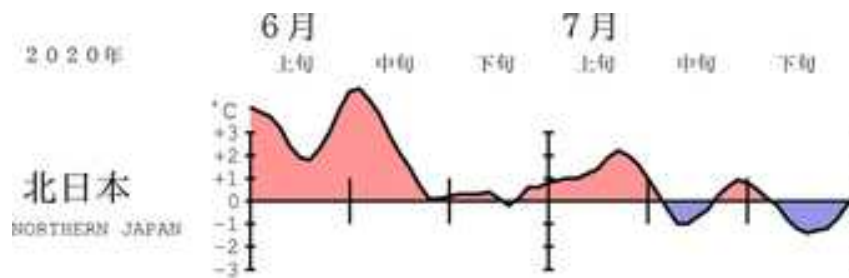




いちご果実・青果事業—自社品種の出荷状況—

- 主力産地である北海道、東北において、6月中旬頃から7月末にかけて低温環境が続いたことで生育が停滞。本来、出荷数量のピークを迎えるはずの7月下旬も大幅に増加せず、高温に転じた8月上中旬の出荷数量が増加。
- 出荷ピークがずれこんだために、10月以降の株疲れからの回復が遅れ、10～11月にかけて出荷量が少ない状況が続く。

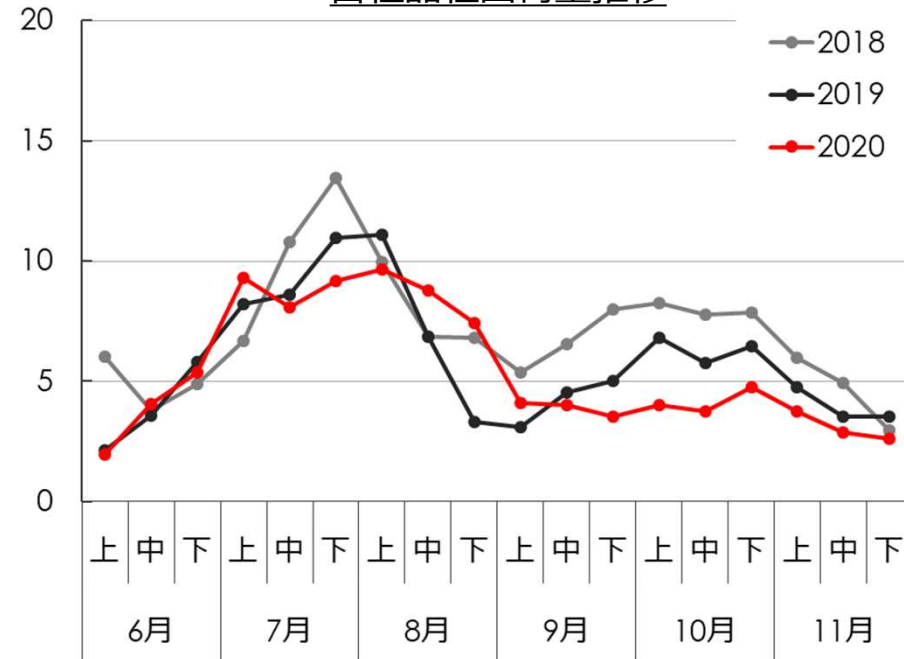
2020年6,7月の平均気温平年差



※気象庁ホームページより

(トン)

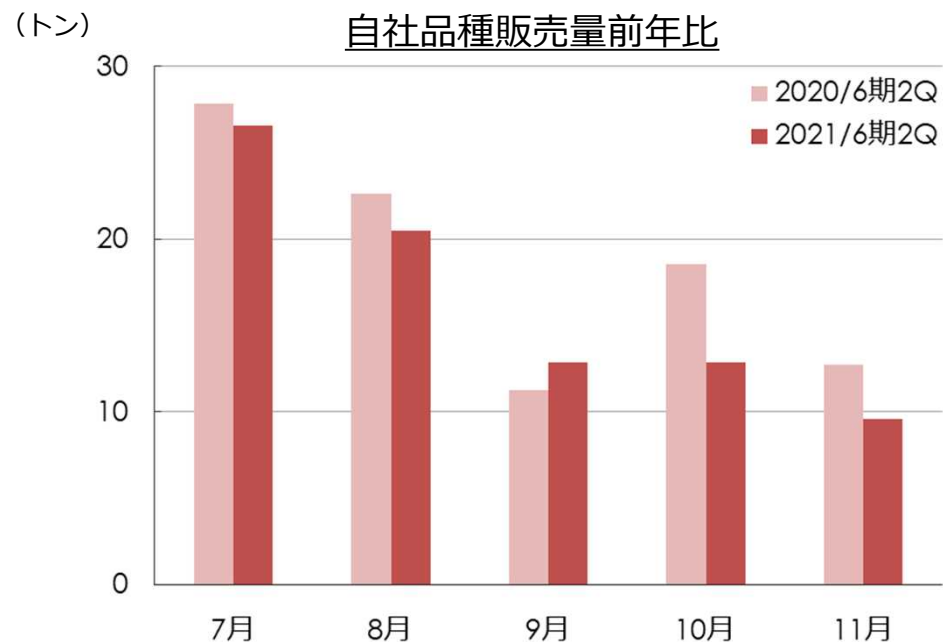
自社品種出荷量推移





いちご果実・青果事業—自社品種の販売状況—

- 自社品種「夏瑞／なつみずき」の認知度が着実に向上。
 - ー 本年度より百貨店の生食向けギフト販売の取組みを開始、業務用としても販売エリア・店舗数が拡大。
- 想定外の時期（8月中下旬頃）に入荷数量が予定より増えたために量販店向け（生食用）の販売に注力するも、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、果実販売に苦戦。
- 10月以降の出荷数量の回復が遅れ、入荷数量の少ない状況が続いたことで、10,11月の販売数量が十分に確保できず、売上高・利益ともに前年を下回る結果となる。

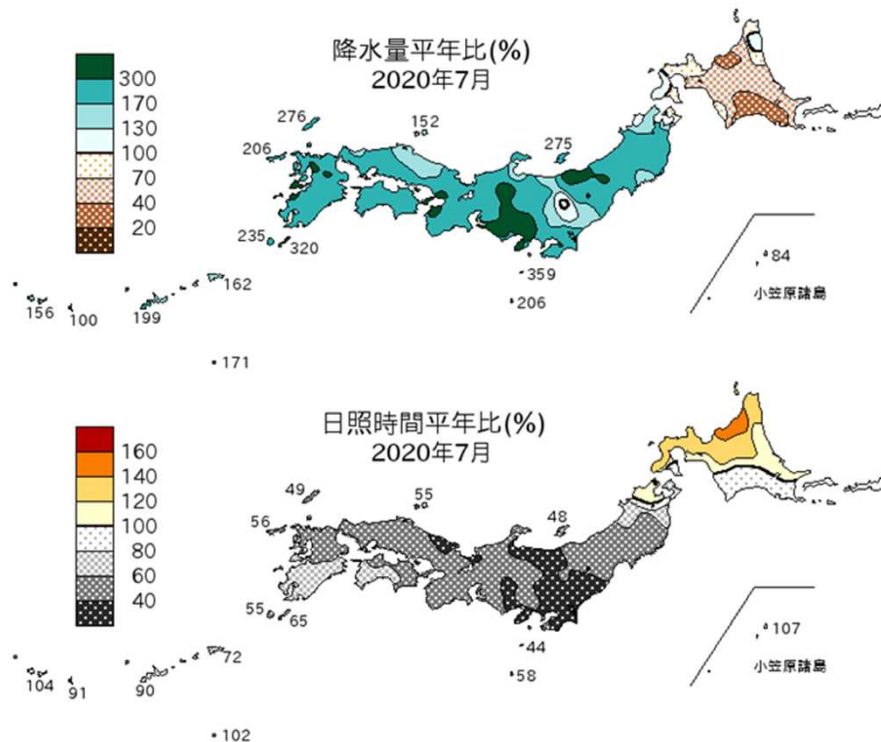




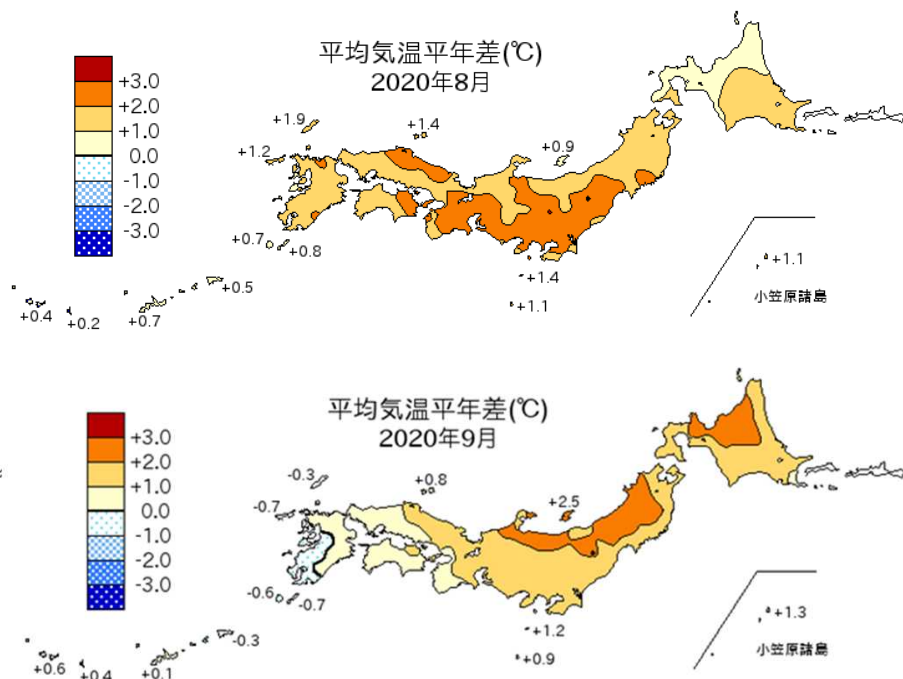
いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況①—

- 促成いちごの育苗期にあたる7月の長雨、日照不足の影響を受け、病害が多発。
- 残暑が厳しく、促成いちごの定植時期に遅れが生じ、生育の大幅な遅れにつながる。

2020年7月 降水量・日照時間平年比



2020年8,9月 平均気温平年比



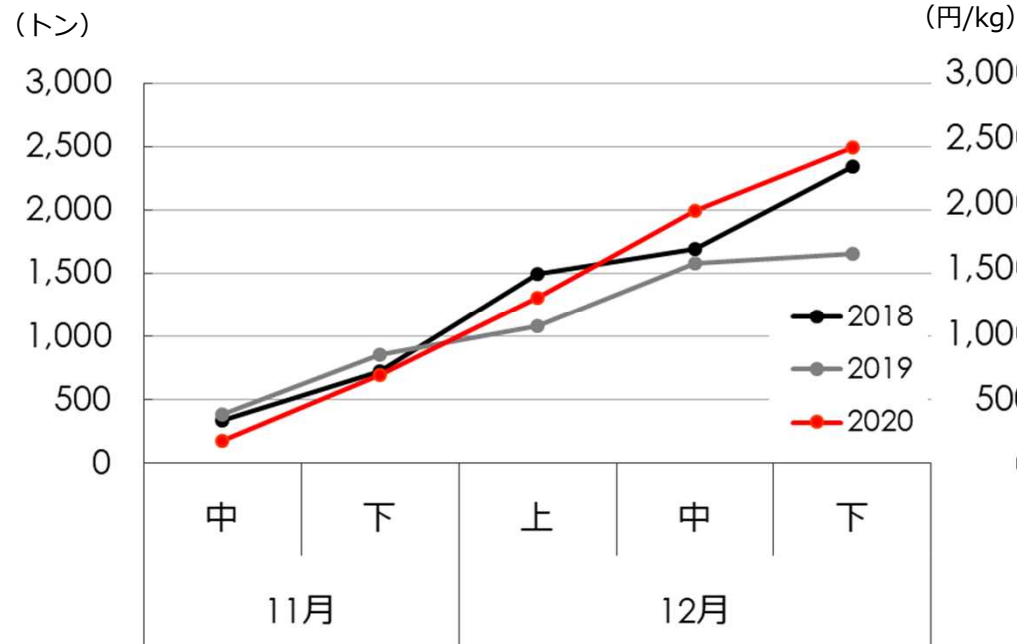
※気象庁ホームページより



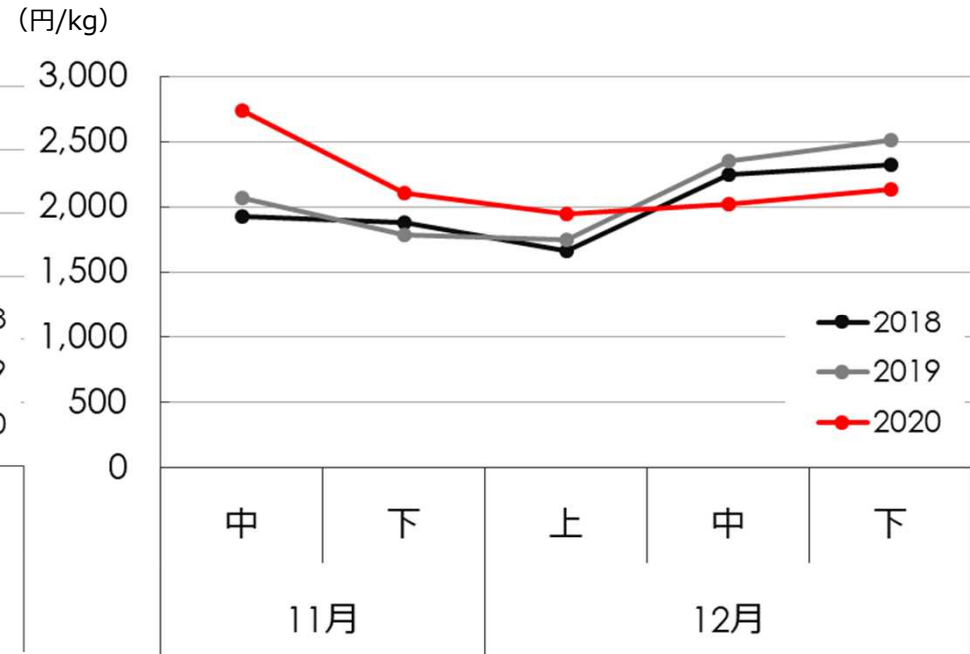
いちご果実・青果事業ークリスマス期の状況②ー

- 定植時期の遅れが出荷開始時期の遅れにつながる。12月に入り、ようやく市場へのいちご果実の入荷数量は大玉を中心に増えてきたものの、当社が主に取扱う業務用サイズの果実はクリスマスにかけて極めて少ない状況が続く。

全国主要市場におけるいちご市場卸売数量推移



全国主要市場におけるいちご市場相場価格推移



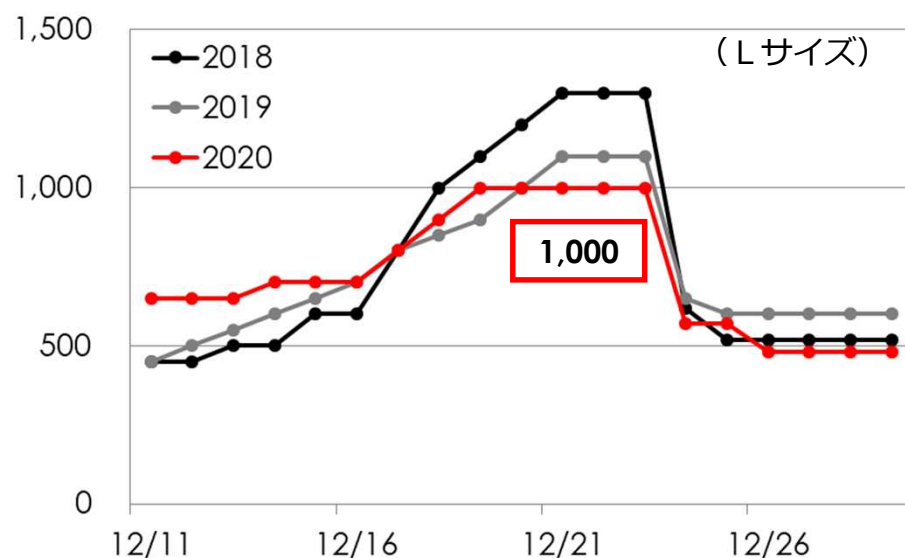


いちご果実・青果事業ークリスマス期の状況③ー

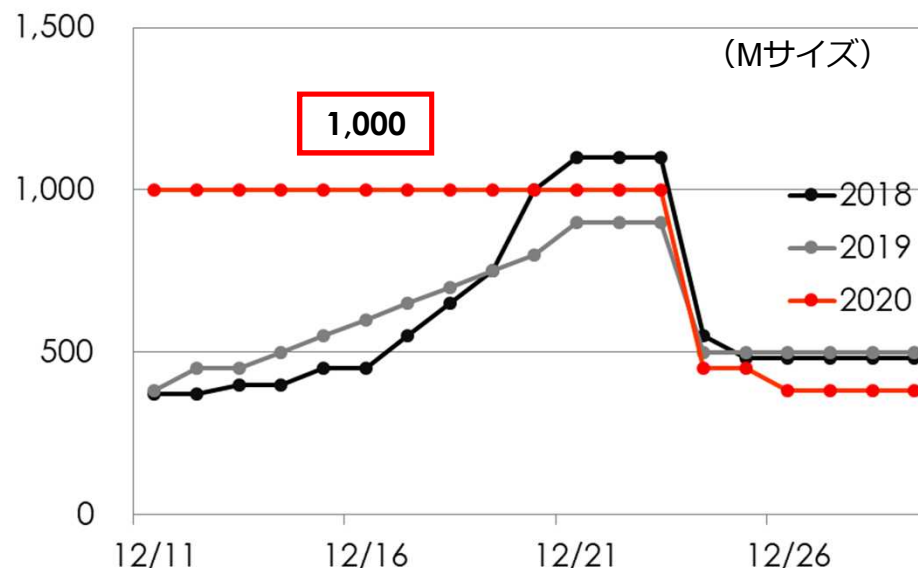
- 業務用サイズの数確保が困難であったことと、各メーカーのいちご果実の使用量減少も重なり、販売数量が減少。
- クリスマス直近になり入荷数量が増加したことと、各メーカーのいちご果実使用量も減少傾向であったために、クリスマス時期の市場相場価格は例年並みで推移。
- 12月上旬より小玉サイズを中心に、例年にないほどの高値が続いたことで、固定価格での販売先に対する利益が大幅に減少。

大田市場におけるいちご市場相場価格推移（業務用サイズ）

(円/パック)



(円/パック)

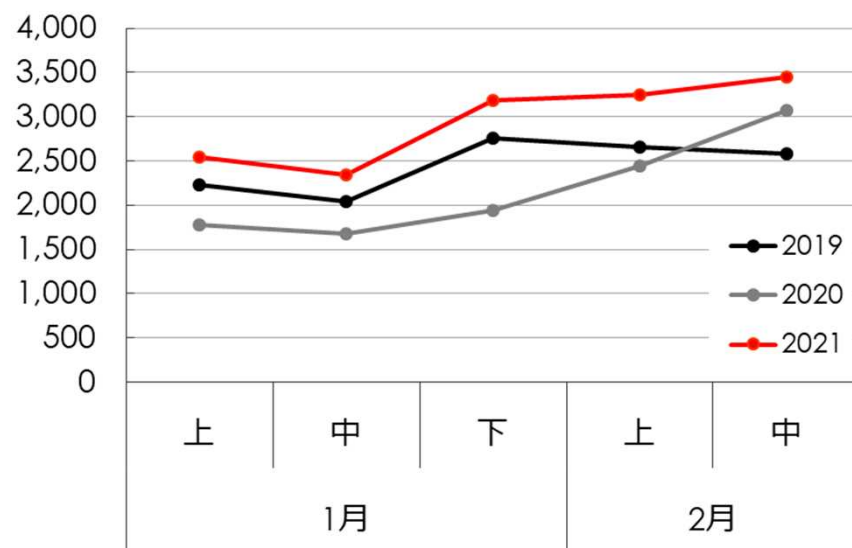




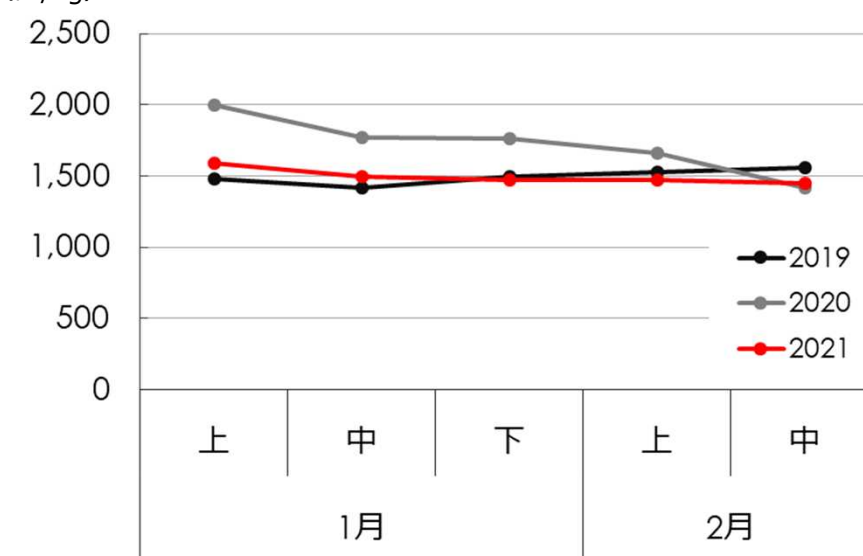
いちご果実・青果事業一下半期の状況①ー

- クリスマス後、市場へのいちご果実の入荷数量が伸び、年明け以降も潤沢に推移。
- いちご市場相場価格が高騰した前年に対し、今年は安値傾向で推移。固定価格での販売先に対する利益が前年よりも改善。

(トン) 全国主要市場におけるいちご市場卸売数量推移



(円/kg) 全国主要市場におけるいちご市場相場価格推移



※農林水産省統計より



いちご果実・青果事業一下半期の状況②ー

- 自社品種「夏瑞／なつみずき」の販売が、曇天と低温で出荷が遅れた前年に対し、今年は気象条件に恵まれ、大粒サイズを中心に出荷が早まる。
- 大粒サイズの百貨店ギフト向け販売などが好調に推移し、6月の販売数量が増加。

<いちご果実の通期販売実績前年対比>

品目		2020/6期	2021/6期
いちご果実	販売数量	1,004 トン	1,017 トン
	売上高	2,154 百万円	2,120 百万円
	総利益	489 百万円	513 百万円

年明け以降のいちご市場相場価格が安値で推移したことはいちご果実の売上高は減少したものの、利益は上半期の落ち込みをカバーし、前年を上回る結果となる。

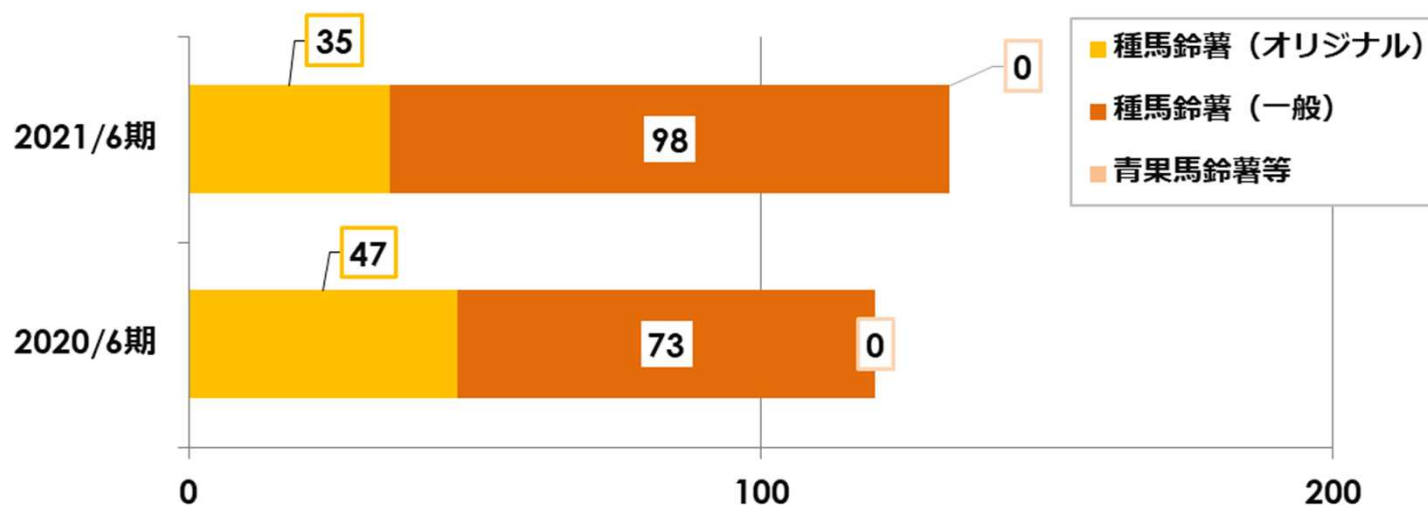
馬鈴薯事業

<種馬鈴薯>

- メインとなる春作向けの種馬鈴薯産地において、日照不足など天候不順の影響で、生産量が大幅に減少。
- 仕入数量の確保に努め、さらに採算性を重視した販売に注力し、売上高・利益ともに前年を上回る。

馬鈴薯事業の売上高比較

(単位：百万円)

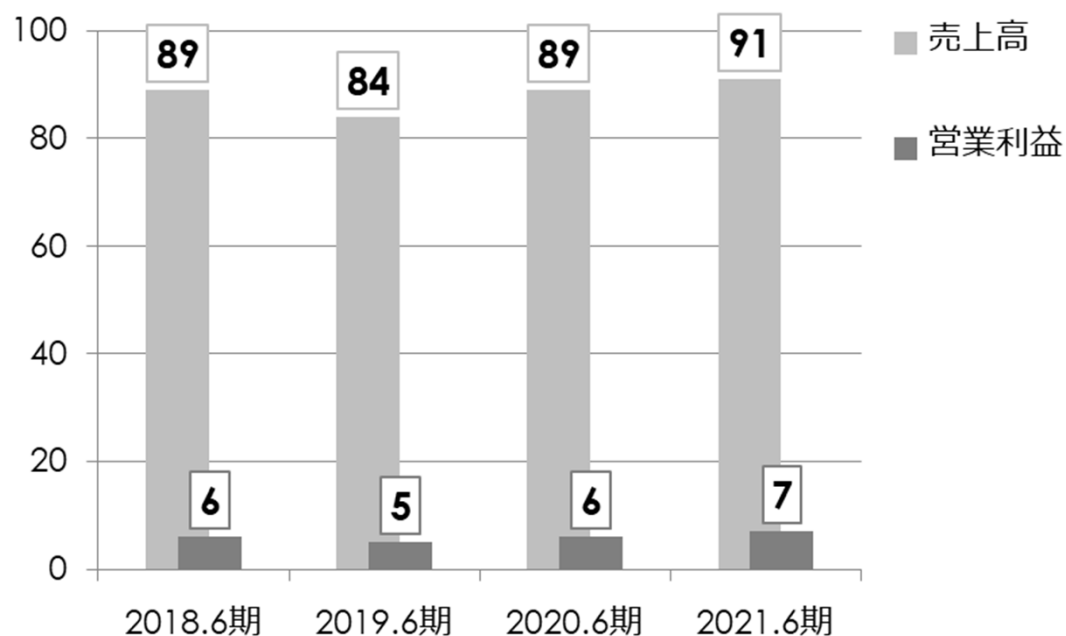


運送事業

- 新型コロナウイルスの感染拡大により一部配送の中止を余儀なくされたものの、新規荷主の獲得により売上高は増加。
- 一般荷主の配送を利益率の高い自社配送へと切り替え、さらに経費削減に努めた結果、利益も増加。

(単位：百万円)

運送事業の売上高・営業利益の推移



※株式会社エス・ロジスティックスは2013年12月19日付で、国土交通省指定の全国貨物自動車運送適正化事業実施機関より「安全性優良事業所(Gマーク)」の認定を受けております。

今後の対応

いちご果実・ 青果事業

- ・自社品種「夏瑞／なつみずき」の食味の良さを活かしたさらなるブランドの構築に向け、百貨店ギフト等を活用した全国的な販売展開。
- ・自社品種「コア」の収量性及び秀品率の高さを活かし、夏秋期の安定的な果実の供給。
- ・促成いちごの販売時期（主に12～5月）における適正な数量の仕入、品質向上に向けた仕入体制強化を継続。
- ・業務の効率化を図り、配送費や労務費などの経費抑制を継続。

種苗事業

- ・食味の良い「夏瑞／なつみずき」、収量性および秀品率の高い「コア」の優位性を活かした新規産地の展開。
- ・海外展開も視野に入れたいちご種苗事業の拡大。
- ・近年の猛暑等の気象変動に対応すべく、耐暑性に優れるいちご新品種の開発。

馬鈴薯事業

- ・海外オリジナル品種の優位性を活かした種馬鈴薯の販売強化。
- ・適正な数量の生産管理、仕入管理を行うことで、収益を確保。

運送事業

- ・新規荷主獲得のための営業を推進。
- ・自社配送及び提携業者を効率的に運用し、収益の向上を図る。



2022年6月期

連結業績通期の見通し

連結業績通期予想

(単位：百万円)

	2022/6期 通期予想	2021/6期 通期実績	前期比 増減額	前期比 増減率 (%)
売上高	2,849	3,039	△189	△6.2
営業利益	135	106	29	27.9
経常利益	135	109	26	23.9
親会社株主に 帰属する 当期純利益	111	108	3	3.2

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。